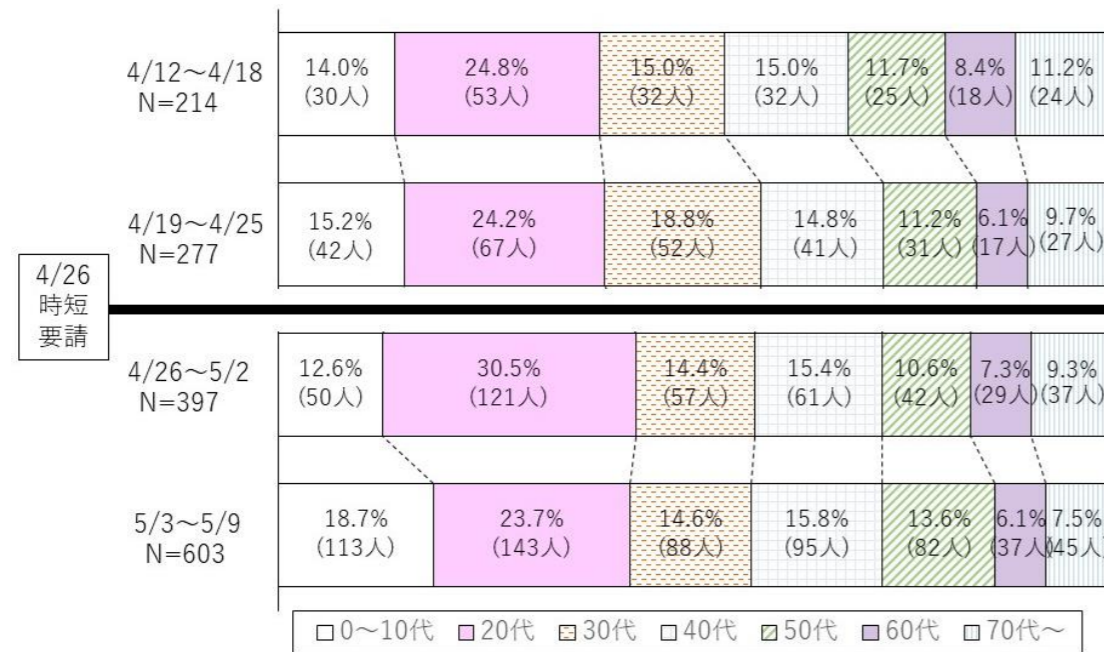


# 新型コロナウイルス感染症対策 まん延防止等重点措置 ～大学等高等教育機関の皆さまへ～

## 【感染状況の分析（年齢構成）】

- 4月以降、30代以下の若年層の感染者が過半数を超える状況。
- 直近1週間（5/3～5/9）をみると10代及び20代の感染者の割合が4割を超えており、10代以下の感染者数が前週に比べて倍増。



## 【実際に感染した県内在住大学生の行動事例】

- 時短要請の直前まで夜の店でバイト。接客中は、本人・客ともにマスク非着用。換気不徹底で体調確認も行っていない店舗だった。
- 4月中旬に愛知県内の実家に帰省。数日後に発熱したが解熱したため、大学に確認のうえ登校（咳は続いていた）。
- 4月下旬、大学の後輩と名古屋市内に行き、夜の店2軒をハシゴ。名古屋市は、既にまん延防止等重点措置区域に指定されており、午後8時以降の時短要請期間であったが午後10時以降に店を利用。始発で帰宅。
- 週6日の朝と夕方、40～50人の規模で部活の練習。ミーティング以外はマスク非着用であった。
- 部活の新生生同士で自動車に乗り合わせ、県内の焼肉店、スーパー銭湯を巡る。部活中もマスク非着用、大声を出して活動していた。

## 【学生・教職員の皆さまへ】

- 若い世代も新型コロナから受けるダメージは大きい  
若い世代は、死亡率こそ低いものの、倦怠感や脱力、睡眠障害、脱毛といった後遺症に苦しむ例が国内外で多数報告されています。  
また、後遺症が半年以上の長期に及ぶ例も報告されています。
- 「新しい行動様式」の徹底を

大前提として、基本的な感染防止対策（マスク着用、手指衛生、三密回避、体調の管理）の徹底を。基本的な対策は変異株にも有効です。

- 外出移動の自粛
  - ・ 日中を含めた不要不急の外出・移動の自粛
  - ・ 発熱など体調異常時は、躊躇なく通勤・通学はもちろん、全ての行動をストップ。直ちに職場・学校等にも連絡を。
- 飲食対策の徹底。コンパ、ゼミ会等懇親会は自粛
  - ・ 飲食は、自宅を含めて、大人数を避けて短時間で。深酒をせず、大声を出さず、会話時はマスクを着用。
  - ・ バーベキューも高感染リスクの場合、自粛徹底を。
  - ・ カラオケも高感染リスクの場合、自粛徹底を。
- 教育現場における感染防止対策
  - ・ 部活動、課外活動の制限、遠隔授業等の推進を。

これまでの感染拡大は、若年層から始まり、高齢層へ広がり、深刻な症状に繋がっています。このため、若年層の感染をいかに抑えるかが感染拡大防止等の鍵となります。

学生の皆さま、高等教育機関の皆さまには、学内から感染者が生じないように、今一度、行動変容についてお考えいただき、「自らの命は、自ら守る」「みんなの命は、みんなで守る」感染防止対策に努めていただくようお願いいたします。